

第11回 長安ロダム環境モニタリング委員会 議事概要

1. 日付、出席委員：

令和3年11月19日（金） 湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 名誉教授）
令和3年11月26日（金） 河口 洋一（徳島大学大学院 准教授）
令和3年11月29日（月） 木下 覺（徳島県植物誌研究会 会長）
松田 春菜（四国大学 講師）
令和3年12月 3日（金） 小林 實（(元) 河川・溪流環境アドバイザー）
令和3年12月 6日（月） 山田 量崇（徳島県立博物館 学芸係長）
山中 亮一（徳島大学 講師）
令和3年12月13日（月） 湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校 名誉教授）

※新型コロナウイルス感染拡大の防止のため、各委員への持ち回り審議とした。

2. 配付資料：

資料1 議事次第
資料2 環境モニタリング調査実施状況[概要版]
資料3 令和2年度環境モニタリング調査の評価結果[概要版]

3. 議 事：

- (1) 環境モニタリング調査実施状況について
- (2) 令和2年環境モニタリング調査の評価結果について

4. 議事概要：

第11回長安ロダム環境モニタリング委員会において、令和2年1月から令和2年12月の環境モニタリング調査実施状況について報告し、令和2年環境モニタリング調査の評価結果について審議を行った。

- (1) 令和2年環境モニタリング調査の評価結果について

【水環境】

- ・夏季の長安ロダム地点のSSの値が高くなっている。ダム上流域から濁水が流入する状況の変化や、貯水池における選択取水設備運用前の低層のみの取水から表層・中層・低層から取水する運用変更によって、貯水池の水の動きに変化が考えられるため、濁りや底質の状況を引き続き観察するとよい。
- ・夏季と冬季に長安ロダム貯水池においてクロロフィルaの値が高くなっている。植物プ

ランクトンの出現種を確認するとともに、T-Pやクロロフィルaの変化に留意して観察するとよい。

- ・ 選択取水設備の効果（濁水期間の低減）を評価するための水質シミュレーションによる検証は、選択取水設備運用後の様々な出水パターンや出水規模データが揃った段階で検証することによりよい。
- ・ 暫定的な選択取水設備の効果（濁水期間の低減）として、現状揃っている実測値を用いて検討、評価することによりよい。

【植物】

- ・ ラン科Aについては、移植やモニタリング調査を継続して実施し、環境保全措置の効果もみられており、適切に対応している。令和3年度の調査結果により個体の移植及びモニタリング調査を終了することで了解した。
- ・ ラン科Bについても、移植やモニタリング調査を継続して実施し、適切に対応しているが、新たな移植先における生育状況を確認する必要がある。今後もモニタリング調査等を継続することで了解した。

【猛禽類】

- ・ 猛禽類の生息については確認頻度に大きな変化はなく、改造事業の工事による影響は確認されなかったと考えられる。

【下流河川調査結果】

- ・ 日野谷P S放水口の底生動物の群集構造は、選択取水設備の運用前後で、礫の表面で採食するカゲロウ類のような刈取食者の比率増加等の変化がみられた。これは、選択取水設備の運用等に伴う濁水低減によるレキ表面の付着藻類の増加効果にみえる。引き続き底生動物の群集構造の変化等に留意するとよい。
- ・ 選択取水設備の効果として、付着藻類の種組成も変わると考えられるため、それらの変化について留意して整理するとよい。

(2) その他

- ・ 水質面（DO、クロロフィルaの変化）や生物面（水温、濁度の変化に伴う生物への影響）等に関する観測を数年間確認し、選択取水設備の運用による影響があるような場合は、運用方法の見直し等を含めて検討していく必要があると考えられる。

以上の議事を踏まえ、令和2年環境モニタリング調査の評価結果を了承する。

(以上)